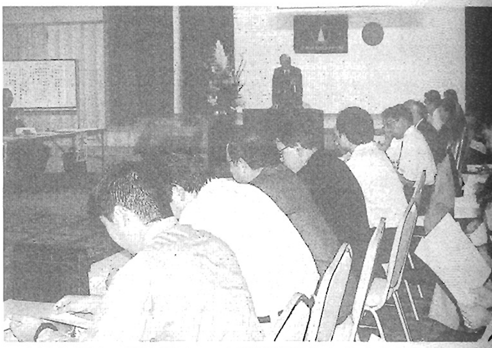
### 県建築士会支部連絡協議会

## 会員減少に歯止めを

### 入会促進の活発展開誓う



会員の維持・増員をテーマに討議が行われた支部連絡協議会
＝志布志町の国民宿舎ボルベリアダグリで

県建築士会（川上道夫会長）はこのほど、雨災害で被害が出ている種子・屋久の熊毛支部を除く12支部の役員ら約180人が参加して、曽於郡志布志町の国民宿舎ボルベリアダグリで13年度支部連絡協議会を開き、「会員の維持・増員への取り組み結果と今後の対策」をテーマに討議し、現在の会員減少傾向に歯止めをかけるため魅力ある士会に脱皮し、増員への転換を永遠のテーマに掲げ今後、更に入会促進を活発に展開して行くことになった。

協議会は、幹事支部の永吉正曽於支部長が歓迎の言葉を述べた後、川上会長は「10月は仙台市で士会全国大会が開かれる。来年は士会創立50周年を迎える。21世紀は環境問題の世紀。建築環境専門家集団の形成を図る必要があり、厳しい社会状況の中で、今後も建築士の意識をもって、地域建築士活動を活発に行いたい。新しい建築指導についても、地域の実情を踏まえた建築士の意見を聞かせてください、との要望もある。世界最高と同レベルに飛躍するよう、よろしくお願いします」と挨拶。来賓の松井謙太郎県土木部建築課長は「これまでの経済社会システム等が大きな転換期を迎えている中、建築士の国際的な相互認証の問題や高い専門能力をもった質の高い建築士像が求められており、建築士の資格制度そのものの見直しも検討されているようだ」と語り、今後の各支部における士会活動に、エールを送った。

このあと、前回幹事支部だった阿久根・長島支部の大平正喜支部長を議長に、「会員の維持・増員への取り組みとその後の対策」をテーマに討議に入り、12支部のうち、5支部の青年部長らが8月末までに回収した、未加入者を対象にしたアンケート結果や会員の維持・増強活動の実態等報告。「入会の意志があっても会社のバックアップがない」、「入会費が高い」、「IT講習会、研修会を増やし、交流会等の行事の維持と内容充実」、「今こそ、熟慮し、ビジョンをたて、変革する時である」などさまざまな意見や提言が出され、1時間余にわたって討議、最後に次回の幹事支部を垂水支部に決めた。

協議会終了後は、㈱統計システム研究所の中村和恵代表取締役を講師に「ITの現状と今後の展開」をテーマに講演会も開かれたほか、地元選出の衆参両国会議員、県議、志布志町や財部町、大崎町の首長らを迎えて懇親会もあり、岩川高校の吹奏楽部の演奏が花をそえた。

シラスバルーン（上から２層目）を施した各種製品
＝鹿児島市のベイサイドガーデンで

### かごしま産業支援センター等 ベンチャー鹿児島

## シラスで省エネ対策

### ライブ 多機能性水系塗料を紹介

松若社長

かごしま産業支援センター、鹿児島県工業倶楽部、九州ニュービジネス協議会鹿児島地域委員会の3団体は12日、鹿児島市のベイサイドガーデンで「ベンチャー鹿児島（二水会）」を開いた。

二水会は、ベンチャー企業の製品の紹介及び事業内容の発表の場を設け、意見・情報の交換を促進、参加企業をはじめ地域産業の活性化を目的に開催。第10回目の今回は、県内2社、県外1社のベンチャー企業が発表。金融及び民間関係者ら約90人が参加した。

建設業関係のプレゼンでは、「天然素材・シラスの活用で省エネ対策」と題し、㈲ライブ（松若譲二社長・川内市）が、溶剤が全く含まれず環境面に配慮した多機能性水系塗料「シラスバルーン塗料」を発表。軽い・断熱性・吸音・結露抑制などの特徴や効果があることを説明。松若社長は「建物の屋根、壁、スレートなど、セメント製品、木材製品、製鉄製品などに施工することで断熱・保温・遮熱が期待できる」と話し、建物の劣化防止やライフサイクルの延伸にも効果があると示した。

### 県建設業協組連合会青年部会 チャリティーゴルフ大会

## 悪天候にも一喜一憂

### 120人が自慢の腕と技競う

県建設業協同組合連合会青年部会（山口克典部会長）の第17回青年部チャリティーゴルフ大会は14日、川辺郡知覧町の知覧カントリークラブで行われ、県内14支部から120人が参加して、自慢の腕と技を競い合った。

同会の親睦事業の一環であるゴルフ大会はチャリティー募金を兼ね親睦を深める目的で開催されており、今年は、宮之城支部から久保敬作支部長ら16人、種子島支部から6人など県内各地から多数参加した。

大会担当の南薩支部（桑畑昭三支部長）は山口部会長ら執行部は、大歓迎しながらもあいにくの小雨と天候を恨みながらも中止か開始を検討した結果、遠来の参加、年1度の交流とあって試合開始を決定した。

スタートでは、山口部会長、桑畑支部長がスモークボールの始球式でスタート。コースでは、霧が深く苦心も見えたが時間がたつにつれ雨もあがり、雨具も脱いで和気あいあいとプレー、随所に見せる真剣なプレーとシングル級の腕に一喜一憂していた。また、8番・16番ホールにはチャリティーガールが待っており、グリーンに乗らなかったら500円徴収とあって必死ながらも楽しくプレー。午後4時過ぎのホールアウトまで大会にふさわしい歓声と交流が続いた。

なお、成績は来月の青年部会ボウリング大会で支部対抗、個人戦など表彰される。

小雨の中、山口部会長の始球式
＝知覧町の知覧カントリークラブで

### 姶良町のISO登録支援社

## JQAと契約を締結

### ISOの審査活動に参入

ISO認証取得のコンサルティングを行っている㈱ISO登録支援社（篠田照明社長、本社・姶良郡姶良町）はこのほど、国内最多の審査登録実績を持つISOの審査登録機関・JQA（㈶日本品質管理保証機構）と契約を締結、「ISO審査活動に参入」し、審査業務を開始した。

同社は、鹿児島に本社を置き、九州各県や大阪、広島、松山など西日本13カ所に拠点がある。国際標準化機構が定めた国際規格ISO9000シリーズや14000シリーズのほか、食品業者の衛生管理手法であるHACCP（ハセップ＝危害分析重要管理点）など認証取得の支援活動を展開し、140社を超える企業を認証に導いた実績を持つ。

篠田社長は、審査業務の参入にあたり「今までは認証取得のためのコンサルティング活動、教育、研修活動を推進してきましたが、これに加え、審査活動に参加することでお客様のシステムが更に改善され、効果が期待できる。今後、建築や土木、各種セクター規格を中心に審査員を増強・増員する予定で、中国、四国、九州に住んでいる方の募集も行う。一方、コンサルティング部門では審査機関の選定については顧客本位で顧客の業務・業容に合致した審査機関の選定を従来通り顧客と一緒に選定し、これを機に九州に本部拠点を置くISO関連企業として、関西以西（特に鹿児島）のお客様の満足度の向上に努め、社会的に大いに貢献したいと考えている」と抱負を述べた。

### 横須賀市のQBS採用

## 現状ではベストの選択

### JIA 村尾会長が会見で評価

日本建築家協会（JIA）の村尾成文会長は12日の会見で、神奈川県横須賀市が美術館建設に当たって、設計者選定に入札によらない資質評価方式（QBS）を採用したことについて、「本来は法律（会計法）が変わるべきだが、現状ではベスト。賢明で良い選択だ」と評価した。

村尾会長は、入札に寄らない設計者選定を「勇気を持ってできない地方自治体が多い中で、横須賀市はきっちりやっている」とし、その上で「本来は法律が変わるべきだが、それはまだまだ困難。現状では（横須賀市の方式は）ベストだ。しかし、トータル（法律が変わらないということからすると）ベターと言える」と話した。

また、資質評価方式は「与条件を固める前に、相談相手を早く決めたいということだ。コンペだと、誰かが与条件を練らなければならない。うまくやると、資質評価方式はコンペよりも良いやり方となる」と述べた。さらに、「信頼できる人（設計者）を選んだところが良い結果（建築）を得ることができる」と強調した。

同席した芦原太郎副会長は、今回の設計者選定で審査員会副委員長を務めている。芦原副会長は、「反響が大きい。真剣に良いパートナーを見つけたいという横須賀市の熱意に敬服している。他自治体の良い例となってほしい」と話した。

“真心とほほ笑みと„をモットーに!!
家具総合卸
南日本家具工芸株式会社
鹿児島市東開町１３－３０
TEL(099)269-7111 FAX 268-0385